

広尾学園中学校高等学校

帰国生には最高の環境と条件（14）

国際担当 小山 和智

2007年4月、新生「広尾学園」がスタートしました。「入学満足度 100%」は既に在学している多くの男子からの便りにもあふれています。ますます目が離せない学校です。

● 広尾学園の個別学習サポート体制

前号でもご紹介しましたとおり、広尾学園は2008年度の入学志願者数が前年比482%増という全国で例を見ないほどの驚異的な伸びを示しました。これは、コーチングの手法で育む「自律と共生」の教育に取り組んでいる広尾学園の姿勢に対し、皆様から熱いご支持をいただいた結果だと私たちは受け止めています。

広尾学園の在校生や保護者の“満足度”を支えているのは、もちろん充実した授業内容なのですが、そのほかに、生徒の個別学習を支援していく「P.L.T.プログラム」「定期試験の解答・解説集/解説授業」「土曜特別講座」そして「土曜特講の夏期集中講座」などがあります。

「P.L.T.(Personalized Learning Test)」は、既にこのコーナーでも紹介したことがありますね。学園の一日は、一人ひとりの学習進度に対応した「P.L.T..」で始まります。各生徒の答案は学習司令センターに運ばれ、放課後の「P.L.T. Follow-up」の時間までにテストの結果に基づいた個別課題が作成されます。この循環型学習を朝と放課後、毎日繰り返していくことで苦手を克服し、さらに上の学力を身につけることができるのです。

現在行っている「P.L.T.プログラム」では、英語か数学を選択して学習します。どちらか苦手なほうの一科目を選んで基礎から学べますし、だんだん力がついてきたら、学期ごとに科目を変えることが可能です。また、この学習で時間管理や集中力の訓練もできますので、他の教科にも好影響があります。

● 独自の刷り込み型学習システム

日常の授業内容の定着を図るのが定期考査ですから、広尾学園では定期考査を格段に重視しています。単なる一過性の試験に終わらせてしまったら、学力アップの貴重な機会を活かせません。

中間試験の範囲設定は、その学期の初めから中間試験までの学習内容が範囲、期末試験はその学期の初めから期末までの学習内容が範囲、そして学年末試験は1学期開始から1年間学んだ学習内容すべてが範囲となります。つまり、何度も繰り返して刷り込むことで、学習内容をきちんと定着させるようになっています。

授業と定期考査を最大限効果的なものにするため、広尾学園では各学期ごとに「解答・解説集」を生徒に配布します。その中には上級生の試験解説まで網羅されていますので、1年生から3年生の学習内容まで縦断的に見渡せます。単に答え合わせをして終わらせてしまうのではなく、関連事項や発展事項まで含めて、改めて学習できるように配慮されています。

期末試験の後には、解答・解説集を使って「解説授業」が行われます。それぞれの学期で行ってきた授業のエッセンスを生徒に伝え、さらに発展項目や入試問題への応用などにも言及します。この解答・解説集の内容をきちんと理解すれば、大学センター試験で高得点が取れるようになっています。



授業公開日（近頃は参観日をこう呼びます）



解答・解説集で万全な復習



熱のこもったディベートの授業